

学院創立125周年・大学開学50周年

記念事業報

創刊号 2008.1

記念事業スタート

2008 春 桃山学院中学校 開校

「文学部」が「国際教養学部」へ一新

和泉キャンパス、昭和町キャンパスに新棟建設

総合教育棟(仮称)

第二体育館(仮称)



学校法人 桃山学院



essay

学院歴史エッセイ

桃山学院125年

— 第1の25年間(1884-1908) —

英国聖公会宣教協会(CMS)は1884(明治17)年9月、大阪川口居留地に二つの学校を開設した。三一小学校は大阪聖三一教会の裏手の部屋で、三一神学校は煉瓦造2階建の校舎での開校である。前者は信徒子弟のため、後者は聖職者養成のための学校である。三一小学校は翌年初め、居留地内に新築移転する。

CMSは1890(明治23)年1月、二つの学校をつなぐ新たな学校として、大阪市西区江戸堀の仮校舎で高等英学校を開校した。東成郡天王寺村字中山(通称「桃山」)で建設中の校舎が開校日までに間に合わなかったためであった。

高等英学校は1890(明治23)年12月に移転、翌年1月に開校式が挙行された。新しい学校の教育方針は、「主ニ英語ヲ以テ実業ニ就カント欲スル者ニ須要ノ教育ヲ施ス」とあり、英語重視の学校であった。しかし、英国式の厳しい指導についていけない生徒たちの退学があり、経営的に困難な状況が続いた。1897(明治30)年までに入学した320名の生徒のうち、卒業した生徒は20名である。

CMSは1893(明治26)年4月、日本人副校長として本田増次郎を招聘した。改革は次々と進められた。1895(明治28)年に学期始めを4月に変更、

また校名を桃山学院と改称、翌年には桃山学校と改称した。学科課程も尋常中学校程度に改定した。その結果、生徒数は増大した。

1899(明治32)年は試練の年で条約改正の結果、内地雑居により、キリスト教の拡大を恐れる政府は文部省訓令第12号を出し、学校内での宗教教育を禁止した。一方、上級学校への入学資格や徴兵令延期の特権などもあり、CMSは認可中学校開校への準備を進めた。

1902(明治35)年4月、大阪で最初の私立中学校として桃山中学校が開校した。高等英学校の時代から英語に重点をおいた教育により、英語に優れた卒業生を多く輩出した。生徒数はさらに増加し、1908(明治41)年には400名を超えた。

(西口 忠 / 桃山学院史料室)



桃山中学校大運動会 記念絵葉書(1907)

※ 6～8頁に関連コラム「歴史のいずみ」を記載しています。

CONTENTS

- 01 コンテンツ(目次)・学院歴史エッセイ
- 02 理事長挨拶
- 03 記念事業計画－組織図・記念事業委員名簿
- 05 記念事業進捗状況－桃山学院中学校の開校について－総合教育棟建設の狙い－「第二体育館」建設基本構想について－文学部が「国際教養学部」へ－歴史のいずみ
- 09 芳名録・凡例・寄付金申込状況
- 13 メモリアルインタビュー



「学院創立125周年・大学開学50周年記念事業」スタート

本学院は、2009年に学院創立125周年・大学開学50周年を迎えます。2003年より学内に準備委員会を設置し記念事業を検討して参りました。2007年3月に記念事業の概要を確定し、現在その推進に鋭意取り組んでいるところであります。

学院創立125周年・大学開学50周年という重みに今改めて思いをいたすと、学院に連なる先人の皆様、関係者の皆様の果てしない情熱、ご努力に敬意と感謝の念を抱くばかりです。その上で、近年の厳しい教育環境の中、先人の努力と多くの方々の助けによって学院が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、この記念すべき節目の年を単に通過点とするのではなく、学院・大学の更なる発展の礎とすべく記念事業を計画し、推進しているところであります。

この2008年4月には中高一貫教育を行う桃山学院中学校を開校いたします（設置認可申請中）。建設着工しておりました中学校棟（聖マルコ館）も完成し、12月8日に竣工式を行いました。幸い中学校開設について、関係者はじめ大きな評価をいただき、改めて桃山学院の社会的影響力を、果すべき使命の大切さと共に再認識しております。さらに昭和町キャンパスの整備計画の中心である新体育館の建設基本構想も理事会・評議員会の承認を得て、本年3月より着工予定で推進しております。

桃山学院創立125周年・
大学開学50周年記念事業委員会
委員長

坪井 清

（学校法人 桃山学院理事長）



また、2009年に開学50周年を迎える大学においては、来年度より文学部を改組転換し、国際教養学部を開校いたします。さらに各学部・学科の改組転換についても検討している段階であります。和泉キャンパスにおいては、国際交流の推進およびキャリア教育の充実に資する「総合教育棟」（開学50周年記念館）の建設基本構想も理事会・評議員会の承認を得て、2009年度より供用開始をめざし、本年3月着工いたします。

昨今の厳しい社会情勢の中でこれらの事業を完遂するにあたっては、学内の努力はもとより、卒業生、学生・生徒ご父母等関係者の皆様方から厚いご支援を仰がなければ到底達成することは至難のことと存じます。

このことに鑑み、記念事業全般の進捗状況を広く関係者の皆様にご報告申し上げ、ご理解賜わる一助として、「学院創立125周年・大学開学50周年記念事業報」を発行することといたしました。本事業報を通じて、学内外の方々の温かいご支援の輪が広がり、記念事業が成功へと導かれますことを願う次第であります。

以上のとおり、記念事業は学内外の皆様方の温かいご支援によりまして、着実に推進しております。今後とも格段のご支援・ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

記念事業計画

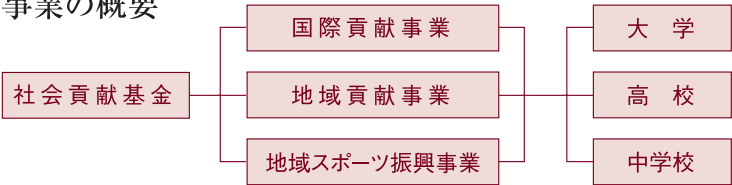
この周年記念事業を未来への確かな基盤とし、
教育機関として社会的信頼に応え続けます。

新たな基金の創設

「桃山学院社会貢献基金」の創設

本学院の建学の精神に基づく「世界の市民」の養成を目指し、学生・生徒のボランティア活動を促進するため、「桃山学院社会貢献基金」を創設します。この基金の果実をもって、本学院に在籍する学生・生徒が参画する国際貢献事業、地域貢献事業、地域スポーツ振興事業活動を支援します。

○ 事業の概要



○ 対象事業

国際貢献事業	大学	インドネシアワークキャンプ、インド・マザー・テレサ施設ボランティア活動、中国砂漠緑化ボランティアプログラム 等
	高校	フィリピン・スクール バイ スクール プロジェクト「学校による学校建設プロジェクト」 等
地域貢献事業	大学	南大阪再生プロジェクト、チャペルコンサート、地域学校教育支援 等
	高校	「命の教育プログラム」 等
地域スポーツ振興事業	大学	少年サッカー教室開催、ふれあいニューススポーツ教室開催 等

今後さらに対象事業を拡大していきます。

新たな教育の推進

● 大 学

- 1. 学部・学科改組転換構想の実現
- 2. 新学部設置

● 高等学校

中学校開設による中高一貫教育および多様なコース設定に基づく新たな展開

関連事業

- 1. 記念式典・記念行事等
- 2. 年史の刊行

新たな拠点の整備

● 和泉キャンパス(大学) 記念館の建設

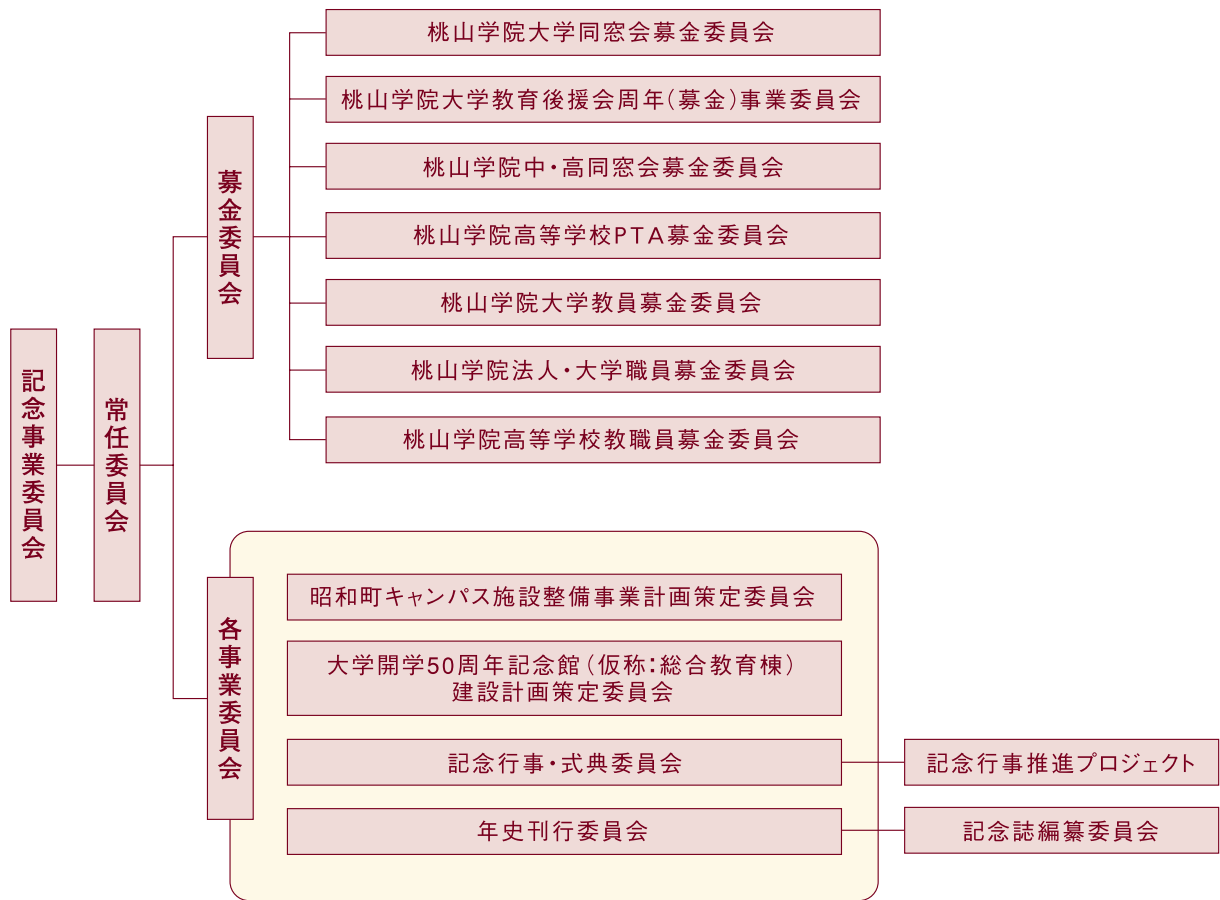
● 昭和町キャンパス(高等学校・中学校)

- 1. 中学校棟建設に伴う環境整備
- 2. 新体育館の建設および現体育館のリニューアル
- 3. カンタベリー記念館(学院同窓会館)のリニューアル



聖マルコ館ステンドグラス

組織図



記念事業委員

(50音順 敬称略)

□ 本学院理事・評議員等(40名)

□ 本学院加盟団体代表者(5名)

木寺 正次	和泉商工会議所専務理事
坂川 弘幸	社団法人日本経済研究センター大阪支所長
鈴木 康郎	堺経営者協会会長
辻本 健二	財団法人関西生産性本部専務理事
三村 正治	特定非営利活動法人 南大阪地域大学コンソーシアム副理事長

□ 本学院歴代理事(12名)

石井 陽三	前校長	木川田 一郎	元学院長
稲別 正晴	元大学長	野々目 晃三	元校長
岡松 誠一	前理事	平野 和男	前理事長
沖浦 和光	元大学長	松本 延次郎	元校長
川勝 堅二	元理事長	村田 晴夫	前大学長
川勝 泰司	元理事	村田 恭雄	元大学長

□ 大学同窓生(6名)

岡崎 誠之	向日市元市長
尾崎 彰廣	合名会社神宗代表社員
杉野 公彦	株式会社ラウンドワン代表取締役社長
田中 邦彦	株式会社くらコーポレーション代表取締役社長
田中 秋作	株式会社大塚製薬工場取締役
藤原 達治郎	株式会社ザ・ビッグスポーツ代表取締役

□ 中・高同窓生(8名)

内田 未男	株式会社ウチダ代表取締役
小川 寛	株式会社マックス会長
柴田 健一	ベスタグ株式会社代表取締役社長
田中 経久	株式会社リヒトラブ会長
福王 輝幸	能楽師十六世福王茂十郎
藤原 安次	堺市副市長
宮下 寛昇	当麻寺宗胤院住職
指吸 明彦	堺市副市長

以上71名

桃山学院中学校の開設について（2008年度より開設。設置認可申請中）

中学校開設準備室長 佐々木 睦 浩

着工後丸1年、2007年10月5日、中学校棟を最後まで覆っていた西側の足場と遮音幕がはずされ、桃山学院中学棟「聖マルコ館」の全貌が現れました。職員会議での本格審議から4年、理事会の正式承認から2年後のことです。併設型の中高一貫教育を行う中学校は大きな関心と期待をいただき、開校に向けての不安を一つひとつ取り除きながら、最後の準備を進めております。

中学校棟は1フロア4教室分の小さな建物です。2階が職員室フロア。3階～5階が教室フロア。6階に理科室・音楽室・作法室、7階に多目的教室・会議室の特別教室を配置し、8階が体育室という構成です。高校棟の左右対称の構図は1912年建設された旧制桃山中学校を模したものと設計されました。特別の趣向は生徒の出入り口として横幅8メートル高さ8メートルのアーチ状の出入り口を設けたことです。また各階のエレベーターホールに桃山学院大学旧登美丘キャンパスの聖ペテロ館に設置されていたステンドグラス（製作者は桃山学院中高第60期卒業・桃山学院大学'62生の山口一城氏、ガラス工房陶額堂で補修）を設置します。新たな命を取り戻したステンドグラスが来校者を迎えます。また高等学校PTAの卒業記念として鐘楼（鐘の直径60cmと50cm）が寄贈され、屋上広場・屋上菜園の一隅に設置されました。

また、桃山学院中学校は学院の建学の精神であるイエスキリストの教えに則った「自由と愛」の精神を高く掲げ、新たに発足する中学校として、他の中学に引けをとらない教学システムの充実を考えています。桃高の教育改革の精

神を受け継ぎ、国公立大学進学という高い目標を掲げながら、特に中学生活では学習だけに縛られることなく、クラブ活動や体験学習を重視した取り組みを進めていきます。《知・徳・体》を探究する15のプログラムを用意し、多角的視野や国際的関心を抱く生徒を育成していきます。

生徒募集も大きな課題です。2007年7月の大学・高校・中学共催の「桃山学院フェア」（スイスホテル南海大阪で実施）で、初めて保護者・生徒に中学校の説明会を実施しました。それ以降本学での説明会や機会のあるごとに中学開設のアピールを行ってきました。新しい校舎も含めて関心を寄せていただきました。10月14日のプレテストは650名の受験生で成功裏に終了しました。第1回の入試本番に向けての計画を進めています。

これまでの準備に慢心することなく、2008年4月の開校に向けて最後まで気を緩めることなく、準備を進めてまいります。桃山学院の関係者の方々には今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



高等学校PTAより寄贈された鐘楼



桃山学院中学校開設記念「桃山学院フェア」を開催

7月28日（土）、スイスホテル南海大阪において、桃山学院中学校開設記念「桃山学院フェア」が行われました。この日は、初めての一般向け入試説明会ということもあり、多くの来場者で賑わいました。入試説明会の他にも、中西哲生氏（スポーツジャーナリスト）によるトークや、川東義武氏（教育研究家）による講演会が行われ、来場された方々は熱心に耳を傾けていました。

総合教育棟(開学50周年記念館)建設の狙い

大学長 松浦 道夫

学院創立125周年・大学開学50周年記念事業の一つとして総合教育棟(仮称)を建設します。記念事業委員会は各所管の意見を集約して、総合教育棟を本学の教育に直接関連するものにしました。国際センター、キャリアセンター、外国語教育センターを中心にして、さらにボランティアセンター、南大阪地域大学コンソーシアムのブランチ、地域連携の場になるように計画しました。特に国際交流、国際インターンシップ、キャリア支援、外国語教育の強化は互いに関連を持っていますので、これらの協力体制を構築して、効果的な教育の拠点、活動の拠点にすることを狙っています。若者向きのコーヒーショップのある憩いの場、語らいの場となるようにも考えています。最上階には11の小教室があり、小クラス制語学教育実施に備えています。また

授業時間外でも学生たちがネイティブの先生にアドバイスを受けられるように考えられています。学生の皆さんが時を忘れて勉学する自学自習の場にしたいと思っています。そして総合教育棟前の学院通りは、多くの国の留学生が行き交う学院国際通りとなるでしょう。桃山に來れば世界の友がいる、世界の友ができると言われるように、この総合教育棟が多くの人々の学びの場、交流の場となり、それが本学の売り、顔になることを願っています。

大学開学50周年を起点に、総合教育棟が継続的な大学発展の起爆剤になることを祈って、記念事業を成功させたいと思います。



総合教育棟(仮称)完成予想図



歴史のいずみ①

ワレン師と日本語

CMSが大阪に派遣した最初の宣教師はC.F.ワレン師である。1873年末に来阪すると、直ぐに日本語の勉強を始めた。一年後には日本語による礼拝を執り行っている。ワレン師は日本に来る前、香港で伝道していたが、広東語も自由に操ったという。CMSの宣教師は伝道地の言葉を学び、検定試験に合格しなければならなかった。ワレン師は三一神学校建設時の定礎式でプール監督演説の通訳をしている。

「第二体育館(仮称)」建設基本構想について

高等学校長 富田 敏之

多くの生徒・教職員が永年待ち望んでいた新体育館の建設計画が125周年記念事業の一環として現実化しました。07年6月昭和町キャンパス策定委員会(略称)を設置し学院創立125周年の年、09年4月の新体育館竣工を目指し、現在精力的に作業を進めております。

昭和町キャンパスには古い建築物が多く、また阪神大震災による破損箇所もあるため「補強・リニューアルで応急処置をするよりも、校舎の全面的な建て替えによって教育環境の一新を図る方が長い目で見た場合、経済面でもまた高等学校の教育においても多大の効果が期待できる」との観点から、学院全体の理解を得、1998年に昭和町施設計画構想が打ち出されました。その計画のもと01年に高校棟(聖アンデレ館)、02年に食堂棟(スプリングホール)が建設され、05年中学校開設計画に伴い07年11月中学校棟(聖マルコ館)が竣工の運びとなりました。そしてD館跡地の計画が立てられ、ようやく最後の新体育館建設に着手することとなりました。1965年に竣工した現体育館は築後42年を経過し、この間この体育館で体育授業を受けた生徒は29,000名を超え、同窓生の大多数の皆さんには思い出深い体育館と言えるでしょう。そして現在も生徒1,770名(46クラス)が日々授業を受けておりますが、アスリートクラスを含む就学コースの多様化、男女共学化、さらに今春開設する中学校の展開も考え合わせると、体育施設の更なる充実が重要な課題となります。ゆえに、新体育館の建設は急務であり、また現体育館についても耐震補強を施し、現役として頑張ってもらうつもりであります。

ここで第二体育館についての建設基本構想を紹介いたします。建設場所は昭和町キャンパス南側、食堂棟とプールの上に位置します。鉄筋コンクリート造り、地上2階地下1階でメイン・サブ2層のアリーナからなり、延べ床面積は4,562㎡です。地階はサブアリーナで床面積963㎡、バスケットボールコート1面(バレーボールコート2面)の広さ、1階はサブアリーナ吹抜部分とその周囲にトレーニングルーム・男女更衣室4室・体育教官室を配置し、サブアリーナ吹抜部分には1周100mのランニングトラックを設けています。2階はメインアリーナで床面積2,071㎡、ハンドボールコート1面(バスケ2面・バレー3面)の広さ、そして正面に舞台が設置され入学式・卒業式等の会場として利用できる設計となっています。屋根面には太陽光発電装置を設置することを検討しております。聖アンデレ館とは2階食堂棟を介して連絡通路を設け、上履きで行き来できる構造にします。新体育館に生徒達の元気はつらつとした声が響き渡るのも間近となってきました。今後とも皆様方のご支援をお願いいたします。



第二体育館(仮称)完成予想図



歴史のいずみ②

「三一」と「桃山」

最初の学校や教会のなまえについている「三一」とは三位一体のことで、英語ではTrinityと書く。神を「父」と「子」と「聖霊」として信ずることを意味する。

三番目の所在地はJR環状線鶴橋駅の西側にあった。当時「吉野山の一目千本より色よく」といわれた桃畑が広がり、通称「桃山」と呼ばれた。「高等英学校」では場所が分からないため「大阪桃山 高等英学校」とした広告を出したこともあった。

文学部が「国際教養学部」へ（2008年度より改組予定）

大学文学部長 小 池 誠
（国際教養学部長就任予定者）

文学部は1989年の創設以来、桃山学院大学全体の活性化に一定の貢献を果たし、数多くの優秀な卒業生を社会に送り出し、その成果は自負できるものであります。しかし、残念ながら、近年になり受験生の減少傾向が生じています。日本社会の大きな変化の中で、文学部の古典的な枠組とカリキュラムが現代の高校生の興味や関心と合わなくなっていることが、その理由の一つとして考えられます。

このような事態を受け、文学部においては真剣な議論を進め、現行の英語英米文学科と国際文化学科を国際教養学科1学科5専修に再編し、文学部を国際教養学部へ改組することを決定しました。文学部という伝統的な名称を変更することについては、学部内外でも様々な意見が出ましたが、高校生や高校関係者など外部に対して改革をアピールするためには、学部名称の変更が必須であるという認識に至ったのであります。2007年度になって文部科学省への申請（届出）作業が進められ、努力が実り、9月に無事、申請が収容定員増（1学年270名）を含めて認可されました。

国際教養学部の教育理念を一言で表せば、桃山学院大学の建学の精神の一つである「世界の市民の養成」の具現化であります。グローバル化が進展する21世紀の世界において、総合的な教養をもち、氾濫する情報に流されることなく主体性をもって行動する「世界の市民」を育てることこそ、国際教養学部の目標であります。「実践的英語力の涵養」、「多文化共生をめざす国際理解の促進」、「発信型の異文化コミュニケーション能力の育成」、「現代の諸問

題への対応」の4つの柱を掲げて、国際社会で幅広く活躍できる人材を送り出そうとしています。そのため、国際教養学科の中に、英語コミュニケーション専修、ヨーロッパ・アメリカ文化専修、アジア文化専修、Japanese Studies専修、メディア文化専修という5つの専修を設けます。

来年度にスタートする国際教養学部は、グローバルな視野をもって地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

開設記念 シンポジウムを実施

国際教養学部開設を記念し、11月24日、大阪ビジネスパーク円形ホールにて「国際教養学部開設記念シンポジウム」を行いました。

ウィーン大学のセップ・リンハルト教授（桃山学院大学名誉博士）が「海外から見た日本人・日本文化とは?」と題し基調講演。続いて元プロテニスプレーヤーの伊達公子さんがトークショーで、自身の海外体験を語りました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは尾本恵市氏（東京大学名誉教授、桃山学院大学元教授）、井上章一氏（国際日本文化研究センター教授）も加わり、国際交流における自国文化の知識・教養の重要性について、それぞれの知見を披露していただきました。



歴史のいずみ③

英語と卒業生

高等英学校時代からの英語に重点をおいた教育システムにより、英語に優れた卒業生を多く輩出した。駒井権之助（英詩人）、森巻吉（第一高等学校長）、浅野勇（桃山中学校長）がおり、少し時期が遅れるが竹友藻風（英文学者）、高垣松雄（アメリカ文学者）などがある。

メモリアルインタビュー

澤井 光造さん

(桃山中学校第22期生)

ローリングス先生の思い出

2007年10月9日(火)、旧制桃山中学校卒業生(第22期)の澤井光造さんにインタビューを行いました。澤井さんは1907年生まれで御年100歳。桃山中学校在学時(1919～1924)の思い出などを語っていただきました。



1918年(大正7年)から1932年(昭和7年)までの長きに亘り校長を勤められたローリングス先生の在任中のお話をお聞かせいただきました。

「ローリングス校長先生が直接生徒に英語を教えられていました。特に英語の発音を熱心に教えていただきました」「ローリングス校長先生はスピーチが上手な方で、朝礼で5分くらい話されることがあり上手いものでした。もちろん日本語です。大阪の校長会でも有名だったようです」「ローリングス校長先生の自宅にも2度ほど伺ったことがあります。帝塚山にあり、今で言う大豪邸でした」

ローリングス校長には2男1女の子供がおり、ご息女は後にイギリスで女優として活躍したマーガレット・ローリングスさん(故人)。マーガレットさんについて澤井さんにお話を伺いました。

「ローリングス校長先生の家に言ったときに娘さんがおられました。後で女優になったと聞いています」「数回英国に旅行したことがあります。マーガレットさんに会いに行きたいと思ったことがありました。80歳を超えたぐらいの時です。教育というものは尊いものだと思います。100歳になった今でも、頭の中に当時のことを覚えています」

桃山学院は英語の学校を起源にしています。旧制桃山中学校でも英語の授業が他の学校に比べて多く、熱心に教えていたと語られました。

「リーダー専門の先生、グラマー専門の先生と5、6人英語の先生がいました。皆さん優秀な先生で、熱心に教えてくれました」「英語の先生の息子が同級生にいて、父親に怒られて泣くようなこともありました」

「文法の先生で飯牟礼先生という人がおられて、授業で指されたときに『今英国にいるかと思ったぞ!!』と英語の発音を褒められたことがありました」

「『Heaven helps those who help themselves(天は自ら助くるものを助く)』と、教わった言葉は今でも良く覚えています。

下手の横好きと言いますか、日本語を英語にして話すのが好きでした。好きなことは頭に入ってくる」

澤井さんは桃山中学校を卒業すると千葉の高等園芸学校(現在の千葉大学園芸学部)に進まりました。

「当時、英語で有名な学校と言えば桃山でした。関西学院も有名でした」「先生に講義で指されて答えると『桃山出身といったら相当英語が達者な筈だが、澤井君はそうでもない』とからかわれました」

中学校に作業課の講師として招かれたお話を伺いました。

「大阪でシクラメンの栽培をしてました。浜寺公園などに花を売りに行くと、そこでローリングス夫妻に出会いました」「『先生、お久しぶりです』と英語で声をかけましたら、『おお、卒業生だな!』と気付かれました」

「桃山中学校で作業課の講師を探しているということで、一気に採用が決まりました」

ローリングス校長は1933年(昭和8年)に天に召されました。澤井さんはその葬儀で棺を担いだことをお話になられました。

「私も含めて6人で棺を担ぎました。外国人墓地に棺をおさめた後、皆で土を入れました。」

桃山中学校の思い出、殊にローリング校長との思い出を饒舌に語っていただきました。

今でも中・高同窓会の総会にはお一人で出向かれるとのこと。

「毎年参加するのが楽しみなんです」

裏表紙の右下がローリングス校長の写真です。左上は本学院の黎明に携わった英国聖公会宣教協会(CMS)ジャパンミッションの責任者、C.F.ワレン師です。

佐藤 洋さん

(桃山学院大学名誉教授)

大学開学 ～苦難の道のり～

2007年10月13日(土)、桃山学院大学名誉教授の佐藤洋先生を訪ねました。大学開学当時のお話を伺いました。

空が澄みきった秋晴れの日、現在佐藤先生が暮らす千葉県佐倉市では秋祭りが行われ、お囃子が鳴り響いていました。佐藤先生の息子さんの洋一さんに案内していただき、先生のもとへ。

テレビを観ていた先生に声を掛けると、突然の訪問に少し驚いていましたが、直ぐに訪問者(学院史料室 西口氏)に気づき、笑みを浮かべられました。

2001年にも『桃山学院年史紀要』掲載のため、佐藤先生に大学開学時の状況の聞き取りを行っており、6年ぶりのインタビューとなります。

「あれから6年? もうそんなになるかねえ」

6年前の聞き取りを収めた『桃山学院年史紀要』の抜き刷りをお渡しすると、しばしの間、熱心にお読みになりました。「読み出すと止まらないんですよ。新聞なんか一人で独占しちゃうんです」と洋一さん。

佐藤先生は学院創立100周年記念事業ともゆかりがあり、『桃山学院百年史』(1987年刊行)の編纂委員長を務められました。編纂のため夜遅くまで残って徹夜の作業になったことも。

「夜になると一旦手を休めて外へご飯を食べに行ったなあ。そしてまた戻ってから作業をしたなあ。そうかあ、なつかしいなあ」

佐藤先生は桃山学院大学開学に際し、その前年から準備に当たられました。産業貿易研究所(現総合研究所の前身)の開設や、大学図書館に収書する図書の選定などに尽力され、準備作業は夜遅くまで行われました。

「昭和町のC館で作業をしたなあ。すぐ近くに旅館があって、



佐藤洋名誉教授と西口忠氏(学院史料室)

よく泊まったなあ。あの頃は豊中に住んでいて、周辺には大きな別荘みたいな家が多かった。電車で学校まで通っていたなあ。昭和町はずいぶん田舎だった。」

当時、大学の開設は現在ほど簡単ではなかったといえます。文部省の許可を得るために松井辰之助先生(初代産業貿易研究所長)が中心となり、「大阪の地域経済の発展のため大学が必要である」との設立趣意書*を作成し、大阪商工会議所を通じて賛同署名を集めました。佐藤先生が携わった産業貿易研究所の開設は、大学設立趣意を具現するものでした。

大学の開学式(1959年)の様子を伺いました。

「あの時は開学式を行ったホール(カンタベリーホール)には入らなかった。大学が開学するまでは、辞令も給料ももらってなかったからなあ。高校の教職員が開学式典を担ってたんだよ」

大学開学までの資金集めや実質的な開学準備作業には桃山学院高等学校の教職員の尽力があったそうです。「もう50年になるのかあ。あと2年で? しばらく生きておかなきゃいけないなあ。何でも協力しますよ。桃山のこと思い出して文章を寄稿しようかなあ」

大阪を離れ、今は千葉で暮らしている佐藤先生。遠くとも心は桃山につながっているようでした。

佐藤 洋名誉教授のプロフィール

1959年4月の桃山学院大学開学と同時に講師として採用。正規採用以前より産業貿易研究所の開設準備、図書館収書の選定などに携わる。経済学部助教授、経済学部教授、産業貿易研究所所長を歴任。1984年の退職後も『桃山学院百年史』の編纂委員長として尽力。勝部謙造名誉教授(初代学長)に続く、本学二人目の名誉教授である。

大学設立の趣意*『大阪経済と桃山学院大学の特色』は次の文で結ばれています。

～われわれは、上来述べてきたような本大学の使命をキリスト教精神に基づいて及ぶ限り達成せんと期するものであるが、時あたかもキリスト教(新教)日本宣布いらい百年の記念を機に昭和34年4月をもって本大学を発足させ、自由闊達な教育を通して地域的に立脚した世界的視野をもつ市民の育成に邁進することを期している。～

この文は、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶」「世界の市民として活躍しうる国際人の養成」という大学の目的として、学則に謳われている。

...comes he, who is mightier than I, the thong of whose sandals I am not worthy
to stoop down and untie. I have baptized you with water, but he will baptiz
ou with the Holy Spirit."

n those days Jesus came from Nazareth of Galilee and was baptized by John
n the Jordan. And when he came up out of the water, immediately he saw
he heavens opened and the Spirit descending upon him like a dove; and
oice came from heaven, "This is my beloved Son; with thee I am well

leased." The Spirit immediately led him out into the wilderness. And he
as in the wilderness forty days, tempted by Satan; and he was with the wild
easts; and the angels ministered to him.
ow after John was arrested, Jesus came into Galilee, preaching the gospel of
od, and saying, "The time is fulfilled, and the kingdom of God is at hand.
epent, and believe in the gospel."

nd passing along by the Sea of Galilee, he saw Simon and Andrew the
rother of Simon casting a net in the sea; for they were fishermen.

nd Jesus said to them, "Follow me and I will make you become fishers of
en." And immediately they left their nets and followed him.

nd, going on a little farther, he saw James the son of Zeb'edee and John his
rother, who were in their boat mending the nets. And immediately he called
hem; and they left their father Zeb'edee in the boat with the hired servants
nd followed him. And they went into Caper'na-um; and immediately on the
abbath he entered the synagogue and taught.
nd they were astonished at his teaching, for he taught them as one who
ad authority, and not as the scribes. And immediately, as in their
ynagogue, he said, "I have here with an unclean spirit; and he cried out, 'Leave you to
o with us, Jesus of Nazareth?"



学校法人桃山学院

桃山学院大学

桃山学院高等学校

桃山学院中学校(設置認可申請中)

学院創立125周年・大学開学50周年
記念事業報 創刊号

2008年1月15日発行

編集 桃山学院創立125周年・大学開学50周年
記念事業事務局

〒594-1198 和泉市まなび野1-1
TEL 0725-54-3131(代表)

印刷 凸版印刷株式会社

「マルコによる福音書 第1章」より